

いつもお世話になります。

暑い8月でした。だからか、例年より読書量が多かった気がします。

この夏私が初めて読んだものの中で最も印象的だったのは、「山岡鉄舟」の本でした。明治維新の時の幕臣です。荒くれ者で常にお金には困っているのですが、武の達人、禅の達人、書の達人でした。



5 バリュースセット株式会社
代表取締役 斉藤彰一

江戸城の無血開城は、西郷隆盛と勝海舟との会談でなされたと言われていますが、実際は、西郷隆盛と山岡鉄舟との間で事前に妥結されたものでした。

山岡鉄舟は徳川慶喜から使者として命じられ、単身で官軍が駐留する駿府で西郷と面会して大枠が決まりました。初めて会ったもの同士でそのような大事がなされたというのは、本当に驚きです。

「命も要らず、名も要らず、官位も金も要らぬ者は始末に困るものなり。此の始末に困る人ならでは、艱難をともにして国家の大業はなしえられぬなり。」という有名な言葉は、西郷が無欲の山岡鉄舟を評したものでした。

維新後は西郷の依頼で、若い明治天皇に10年仕えるのですが、明治天皇を相撲で投げ飛ばしたりもしています。天皇教育も命がけでおこなっていました。

そのような山岡鉄舟でしたが、西郷からも、将軍からも、明治天皇からも、絶大に信頼され、清水の次郎長や多くの門弟からも絶大に尊敬されていました。時代が違いますのでいろいろと真似はできませんが、最高に懂れる人物です。

本を読み終えて、少し山岡鉄舟の書も見ってみました。
写真は鉄舟の書です。



(画像出典) 長谷川画廊アーカイブス Web 書画ミュージアム

「信為萬事本」とかかれており、読み方は「信を萬事の本となす。」

鉄舟の生き様は、まさに「信を萬事の本となす。」のままであったと思いました。

当社は開業して6年目となりました。世相も業界も順風な話ばかりでは決してないのですが、「信を萬事の本となす。」の精神で歩いていけたらと思います。

今後とも5バリュースセットをよろしくお願いいたします。

2026年9月15日